

医療最前線 >>> vol.59

川崎医科大学総合医療センター
総合がん診療センター

「患者さんの価値観を最大限に尊重しながら治療にあたりたい」と、瀧川教授は話す。



ICI投与は原則的に通院治療で行なわれる。そのため患者のQOL(生活の質)を維持しやすいのも特長のひとつだ。

出張の移動時に小説を読むのが楽しみです。最近は何川賞受賞作が多いですね。



総合がん診療センター長
瀧川 奈義夫 教授
Nagio Takigawa

- 専門分野
肺がんを中心とした固形がんに対する化学療法、分子標的治療、早期肺がんのCT診断
- 専門医・認定医・指導医
日本内科学会総合内科専門医・認定医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

Report!

肺がん治療に新しい選択肢を

肺がん治療で注目される免疫チェックポイント阻害薬(ICI)。

「肺がん治療には、手術、放射線治療、そして抗がん剤や分子標的薬による薬物療法があります。なかでも私が専門とする薬物療法では「免疫チェックポイント阻害薬(ICI)」の有効性が近年さらにクローズアップされています」と話す瀧川教授。

もともと体に備わっている免疫力を取り戻そうと働く「ICI」。現在、一般治療で肺がんに使えるのは「ニボルマブ」と「ペムブロリスマブ」という薬が中心で、保険が適用されるのは、二剤とも肺がん全体の約八割強を占める非小細胞がんに限られている。

「ICIは今のところ副作用が少ないとされていますが、全身に症状が二気に出る可能性があり、その予測が課題となっています。またICIはすべての患者さんに投与できるわけではなく、当然全員に効果があるわけでもありません」と瀧川教授は注意を促す。そうしたことをふまえて当センターでは、外来通院でICI治療を始める前に患者に入院(二泊もしくは二泊)してもらい、治療方針や副作用が起きた場合にもどう対処するかなどを患者や家族に説明するという。

「ICIは、治療効果は高いのですが使われ始めてまだ日が浅い。それだけに適切かつ慎重な対応が不可欠です。こうした新しい治療法こそ、大病院の総合力が必要とされています」と瀧川教授は力説する。

副作用をできるだけ少なくし、より治療効果を高めるために。

「放射線治療の特長は、臓器の形や機能を保ちながらがん治療ができる点です。たとえば、乳がんはかつては乳房全体を切除する手術が主流でしたが、今は腫瘍とその周辺をわずかに切除し、乳房全体に放射線を当て「乳房温存療法」が主流となっています」と話す林准教授。加えて放射線治療は「副作用をできるだけ少なくして、治療効果を最大にすることを念頭においている」と語る。

放射線治療における技術の進歩によって高精度な治療が可能になってきた。その代表的な治療法のひとつが「強度変調放射線治療(IMRT)だ。IMRTは病巣の形に合わせて放射線を絞って当てることができる技術。放射線の強度を変えながらいろいろな方向から当てることにより、副作用を軽減でき、さらに効果を高められるようになりました」と林准教授。どの治療法も体への負担が少ないため高齢者や持病のある人でも選択できることが多い。また、世界レベルで放射線治療とICIを併用した治療が進んでいる。それだけに放射線治療の最前線を担う林准教授率いる当センターへの期待も今後さらに高まると予想されている。

お問合せ

川崎医科大学総合医療センター
岡山市北区山下2-6-1
086-225-2111
https://g.kawasaki-m.ac.jp

川崎医科大学総合医療センター
放射線治療センター



「患者ファースト」で、病気だけでなく、人を診る。それが医師としての変わらぬ想いだ。



IMRTは病巣の形に合わせて放射線をあてることができ、より高度な治療が可能。

趣味は読書。最近は何山県出身の磯田道史さんの著作をよく読んでいます。



放射線治療センター長
林 貴史 准教授
Takafumi Hayashi

- 専門分野
放射線治療
- 専門医・認定医・指導医
日本医学放射線学会放射線科専門医、日本放射線腫瘍学会研修指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

Report!

可能性広がるがん放射線治療